

第7回学校再編計画策定委員会 記録

- 1 日 時 令和2年11月12日(木)午後1時30分～午後4時40分
- 2 場 所 牧之原市役所相良庁舎4階大会議室
- 3 参加者 委員10人全員出席
島田桂吾、横田恭子、櫻井真弓、小柳津敏法、石神綾子、服部真和、
種茂和男、赤堀康彦、増田ひとみ、良知恵里香(順不同・敬称略)

4 概 要

10月に9小学校区で実施した市民意見交換会の意見等を踏まえて、計画素案づくりに向けて検討をした。主な論点は、2つで、2校案を固めていくにあたっての学校組合、小中一貫、コミュニティ・スクールについてと、学校の場所と通学方法をどこまで素案に書き込むか。さらに、追加の視点として、教職員との情報共有が協議された。次回策定委員会で引き続き協議を行うため、協議による決定事項はない。

(1) 2校案について(学校組合、小中一貫教育のメリット・デメリット、コミュニティ・スクール)

○ 学校組合

- 牧之原市の学校が2校に再編されるということについて、これだけたくさんの方が賛成しているのなら、それが一番だとは思いますが、しかし、牧之原小中学区については、この10年間では切り替えられない。高台開発もあるので、もしかしたら人口が増えないかもしれないし、逆に子どもたちがどんどん減少して、今の学校の良さが消えてくるかもしれない。今回の再編は、牧之原小中学校以外として、牧之原小中学校についてはその次の10年で段階的に考えていくのはどうか。
- 牧之原小中学校は、2校になると、旧相良、旧榛原、菊川市で構成している地域なのでバラバラになってしまう不安を持っている。一方で、単学級のため、クラス替えがなく9年間継続だと、人間関係が固定されてしまうのも心配という意見も聞いた。
- 牧之原台地は特別な場所だと牧之原小中学校のみなさんが言っていたが、牧之原小中学校だけでなく、どの学校区にとっても学校は大切なものである。どこの地区も同じように今ある場所から学校がなくなる。各地区でも本音を言えばそのままの場所で建て替えてほしいという思いがある。ただ、安全性・多くの児童生徒が通うことなどを考えたときに、市民のみなさんがこの案について賛成してくれている。他の区も母校愛は同じではないか。
- コロナ禍で、自宅でリモート勤務が増えている時代に、高台開発をしても人数が増えるのか予測できないのではないかと。1校案の意見もある。子どもの頃からの学習が最後まで生きてくると思うので、子どものとき

- から市に1校にして一体感があることも良いのではないか。
- 学校数について、意見交換会の意見の70%程度が2校でよいと言っている。この声をどうするのか。全体的なことを考えてやるか、もう一度、議論を戻して2校にするか3校にするか策定委員会の中で協議するか。7割の人が2校で良いと言ってくれたことに対して、3校にするとなった時にどうフィードバックするか考えなければいけない。
 - 小規模校は地域と学校のつながりが深い。それをどう継承していくか。地域とのつながりを考えていくことが非常に大事な問題。
 - これから子どもを育てる人の意見を聞きたい。少子化が進む中で、これから子育てする人は、9年間少ない人数の同じ子と過ごしたいのか、人数がいる新しい2校の方に通いたいのか。子どもの思いを一番に考え、2校の良さを分かってもらえたらと思う。
 - 学校がなくなっても、コミュニティや地域のつながりはなくなる。学校というものはなくなってしまうが、新しい時代のコミュニティができてくるのではないか。
 - 各学校を1つにしていく中で、榛原地区であれば川崎・細江・勝間田・坂部の4つの小学校が1つになっていく。 $1+1+1+1=1$ と考えるのではなく、 $1+1+1+1=$ バラバラな4というよりも一塊の4というように、それぞれの学校の良さを生かすことができればと思う。意見交換会のアンケートで「学校が大きくなって、それぞれの地域で大きくなった学校を支えていけばよいのではないか」という意見に感激した。1つの学校をみんなで作って支えていく。そこから新しいコミュニティや既存のコミュニティを大切にしていくという思いが地域の方々に生まれてきてくれたらありがたいと感じた。
 - 牧之原小中学区の方のアンケートに「地域に学校がなくなることがさみしいのはわかるが、将来の子どもにとって何がよいのか、保護者はどの学校へ通わせたいと考えるかを考えてほしい」ともあるように、地域の方の意見も分かるが、そこにいる子どもたちのことを考えていくのが私たち策定委員の役割。今、牧之原小中学校はとても良い教育をしているので、そこで学びたい子どもたちもいると思う。ただ、近くに新しく整備の整った2校ができる。一方、自分たちは40年以上経っている校舎に通うということに対して、子どもたちはどう思うのか。子どもの未来を考えていくというスタンスについて、改めて考える必要があると感じた。
 - 今回、統合でなく、再編であるということは大きな出来事であり、チャンスでもある。今まであったものがなくなるという地域の方の喪失感はあると思う。地域と学校が築きあげてきたものを、どう新しい学校に生かしていくか、その見通しも重要になってくる。子どもたちにとってどうなのかは、策定委員会の出発点であり最後に戻ってくるべき視点。
 - 地頭方地区は、小学校の立地面への保護者の不安と小学校から中学校へ通う際に教育の分断がある。小中一貫校になれば牧之原市の学校へ通えるという意見もあった。御前崎中学校については御前崎市との協議が必

要となる。引続き丁寧に意見を聞き取っていく必要がある。牧之原小中学校は、菊川側がどう考えるのかも考えなければならない。7割が賛成していることもあるが、2校+小規模校1校とし、段階的再編という考え方もあるのではないかと思う。ただし、それなら自分の地区も再編に入れて欲しくないという意見も出てくるのが予想されるので、丁寧にやっていく必要がある。

- 望ましい教育環境のあり方に関する方針に示す「次代を切り拓く力」をつけていきたい。そのためには多様な人、異年齢の人と関わることで、キャリア教育を軸とした小中一貫校、地域全体で子どもたちを育てていく仕組みをつくるのが大きな狙い。牧之原小中学校を残したときに、その力を育成できるのか、育成するためにはどんなプラスアルファが必要なのか。10年というある基準を超えて、2校の内どちらかに行くとなった場合のメリット・デメリットを考えていく必要がある。牧之原小中学校は引き続き検討となっているので、それをいつまでにするのかということも答申に書き込むのか。ただ、新しく2校ができたあと、高台の人口増えなかったから、やはり2校のどちらかに行くことになったときには、再編でなく統合や編入になることを分かってもらう必要がある。できたあとに入ってくると、これまで牧之原地区が築き上げてきたものをカリキュラムに入れられる保証ができない。時期についてどう考えるかを委員会でも議論したほうが良い。子どもたちにとって最もプラスになるように。
- 意見交換会では、多くの地区は、2校になることに前向きな意見が多かったが、牧之原小中学校区は前向きになれない。夢があり、もっと楽しいことができるというのが「再編」であると思っている。牧之原の人たちは、コミュニティが4つにバラバラになってしまうと不安に思っているので、その不安が払拭できないと、夢がある再編には入れないと思う。
- 子どもたちにしっかりした情報がいなくて、不安になっていることもある。
- 自分たちがどういう環境で育っていきたいのか、それを考えるチャンスにもなると思う。ワクワク感がない中で進める、というのは問題。子どもや若い保護者がどう思っているのか、その地域が残ることによるメリット・デメリット、人口が増えない場合は統合という形になるということも含めてどう考えているか。菊川市との情報提供はできているが、どうなるのかというシミュレーションについてはまだ。意見や情報提供は必要。牧之原小中については12月にも議論していく必要があるかと思う。

○ 小中一貫教育とコミュニティ・スクール

- コミュニティ・スクールについては、学校が大きくなれば、支援してくれる人が増える。小学校の小さいうちには自分の地域、それがどんどん広がって牧之原市というふうになっていけばと思う。マイナスのイメージはあまりない。再編までにディレクターのつながりが深まれば新しい

大きな学校になってもコミュニティ・スクールができるのではないかと思う。

- 教職員や地域の方がどう関わってくるかによって変わっていく。今後、新しい学校をつくるまでが大きなポイントであると思う。今のコミュニティ・スクールの良さを大きくして、新しい学校へどう生かしていけるかが大切。答申の中に書き込む必要がある。
- 小中一貫教育は、小学校側からいうと今までは6年生をゴールとしてカリキュラムをつくっていたことが、今は中学3年生をイメージして教育活動をつくることが変わった。一番違うのは授業。6年生の目標、中学の目標が分かることで、子どもたちにとって学びが大きくなる。今では、中学校の先生が小学校の授業を見に来てくれることも増えた。中学校の先生にとっては、小学校の学び合いの良さを中学校の授業に取り入れていることが、子どもたちにも先生にもプラス。学び方の方法が広がっていく。そういった意味で、小中一貫は素晴らしいと思う。
- 文部科学省のアンケート結果では80%が小中一貫校が良いという意見。ただ、課題があると答えたのも80%で、課題としては、小中の先生方が衝突してしまう、混じり合うのに時間がかかるということだった。交じり合うのに1年かかる。夢ある再編を望んでいるので、1年間交じり合えなくて夢を感じられず、衝突の期間があるのであれば、それはもったいないと思う。再編した瞬間に小中の先生たちと一緒にこの学校をいい学校にしようという状態になってほしいので、小中一貫校が始まるまでの期間に、教職員が小中一貫が分かり、やる気を持てる準備期間が必要。地域も先生も、夢がある再編をするためには準備期間が必要。
- 先生たちがワクワクできるような学校にしなければ、子どもたちもワクワクしない。先生たち自身がメリットを感じつつ、メリットにするためにはどうすればいいのか、先生たち自身が考え、いろんな思いを聞くような、そういう学校づくりをしていってもらいたいということは答申に書き込めると思う。

(2) 通学方法と場所（スクールバス、場所、複合施設）

- 高台は安全だけれど、徒歩・自転車はつらいのではないか。場所の選定は、学校が安全な場所にあることと、できるだけ徒歩で通うことができる子が多いこと。
- 場所は候補地として示したところで良い。バスの費用について、大体の予算があって市でまかなえるのか、保護者には負担が必要となることもあるのかなど不明な点について、今分かる範囲で説明をして理解を得たい。
- スクールバスの運用は体力の面でデメリットもあるが、そこをどう補っていくかは学校なのか社会教育なのか、対策を検討して欲しいということも書き込むことはできると思う。費用については他の事例も含めてメリット・デメリットを示していく必要がある。

- 津波のこともあるので、もう少し高台に寄せるのも考えてもいいのではないかと思うが、奥に行けば行くほど、バスに乗る子が増えてしまう。ある程度市街地に近い場所でないと採算がとれない。人口が少ない子どもたちが時間や距離の上で不利にならないように運行時間なども考慮が必要。距離だけでなく、高低差や町内会や班・組等の単位で分けることも必要ではないか。
- 通学路の保全・整備が必要。
- 相良地区については、菅山はバイパスがあり、ジャストラインのバスターミナルがある。津波も来なく平坦で徒歩・自転車でも行きやすい。候補に入れてもよいのでは。
- 中学生だけを想定すると、牧之原から相良に行くようになった場合と、地頭方が相良に行く場合はバスを検討しなければならないが、それ以外について、現状はみんな自転車で通っている。対象を地区で一律に決めるのではなく、学年の考慮、安全面も考慮が必要。小中一貫校をつくったときに高学年をどうするか、学年の区切りについて発達段階を踏まえて考える必要がある。通学路の整備、ハザードマップも重要。通学途中で震災があったらどうするか。バスを運行する場合はそういった視点も大事。
- スクールバスの負担は、市の財政問題もあるので、全て無料というわけではなく、ある程度の金額を決める必要があると思う。無料にしてしまうと、みんな乗りたいとなるので、バスと自転車の区別も大変になってくる。検討していく必要がある。
- 小中一貫校はクラス数が多くなるので、体育館、運動場の数や広さが必要となる。いろいろな地区から保護者が来るようになるので、広い駐車場が必要となる。
- バス、必要な広さ等、具体的なシミュレーションについては、どの段階でどの部分を具体化していくのか示しながら市民の方に話ができたらと思う。今の段階で決められることと決められないことがある。どの段階で検討していくのか、市や事務局と打合せしながらやっていく必要がある。
- スクールバスは、無料ということは住民が税金で負担するということが、スクールバスで通っている保護者から一部受益者負担をいただくのか、など全体にかかるスキーム。高台開発やまちづくりには、大きなお金が必要になる。道路、インフラ等のお金を含めてリアルに検討していかなければならない。話が難しくなってくる。今やるのか、これからある段階になってからやるのか、小額の負担になるのか等についてある程度示せば不安も減るかと思う。
- 大雨になると榛原中学校付近が浸水するという意見が市民の方から多くでた。どこまで安全を担保していくのか。津波浸水区域、河川の氾濫などについては、水害は建物にげたをはかせて最低限の安全は守れるようにするのか、完全に高台にいくのか。市民の防災拠点としてその場所をあてにしたいのか、そうではないのか。一番人が住んでいる場所から

離れると、通学距離が増える子が増えていくことになる。どれが一番にとるのが牧之原市のまちづくりにとっても良いのか、要素を総合して考えていかなければ答えは見えないのかと思う。人口が減っているという話は、コンパクトシティやシュリンクとあって、東京などの特別な場所は別としてシュリンクさせていくのが主流なので、やみくもにやれば良いというわけではない。牧之原市の場合、どれが一番市にとって良いのか、明るい未来を描けるのか。全てをこの再編委員会の中で描き切ることにはできないので、こういうことを考えたほうが良いという視点を書き込んでいくようになるのかと思う。

- 策定委員会で協議できない部分については、今後決めるときの考え方を答申に入れていくことが現実的かと思う。

(3) 今後の進め方（教職員との意見共有）

- 教職員がワクワク感を持って取り組むためには、小中一貫校を実際に見ることが必要ではないか。具体的にイメージするためには、現実の学校を見ると、こういうことをしたい、できるということを考えることができる。
- 牧之原市で教職員に学ぶ機会が必要。簡単にいい学校をつくることはできない。若い先生たちが、苦勞してつくっていくということも良い経験になるし付加価値を高めること。牧之原市の学校は地域の参加があるので、学校だけ、地域だけで考えるのではなく、一緒にどんな学校をつくっていきたいのか。その基盤がコミュニティ・スクールになっていくと思う。そのためには、牧之原の未来にとってどんな施設が良いのか、どんなプログラムが良いのか、対話をしながら進めていくことがとても重要。牧之原市ならそれができると思うので、そのような視点を含めながら原案をつくっていききたい。

(4) 「再編計画素案に載せる項目等について」及び今後の進め方について

- 委員長より説明し、案のとおり合意。